

# 大阪インターナショナルチャーチ

2013/6/30

ジョセフ・トッティス牧師

ヤコブ5:1-20

=====  
先週、神から独立して生きることができると思う人の誇り高ぶりについて学びました。そういう人は、呼吸や鼓動も自分でコントロールできるように振る舞います。

しかし、ヤコブはこう言います。

**ヤコブ 4:6b** 「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」

これは、誰もが受け入れ、生き方に取り入れるべきアドバイスです。しかし、必ずしもとは言えませんが、裕福な人はこれをなかなか受け入れられないようです。裕福な人は、完全に主に頼るといよりは、財力に頼る傾向があるからです。

そういうわけで、ヤコブは5章の冒頭で、そういった考えの人たちに警告します。

**ヤコブ 5:1** 聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き叫びなさい。

ヤコブ 5:2 あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、

ヤコブ 5:3 あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。

イエスもおっしゃいました。

**マタイ 16:26** 人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。

そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。

多くの人は富と名声を手に入れたいと強く望みます。しかし、私からすれば、主を差し置いて富と名声を選んだ人はかわいそうな人たちです。人は自分勝手な生き物です。自分の欲しいものを手に入れる過程で、他人を傷つけてもおかまいなしです。

ヤコブは、そのような人たちにこう言います。

**ヤコブ 5:4** 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、**万軍の主**の耳に届いています。

「**万軍の主**」は、旧約聖書でよく見る言葉です。

これは、すべて（軍、太陽、月、星、天地創造自体にいたるまですべて）の上に君臨する全能の主権者なる自存の神という意味です。

祈りが聞かれていないとは思わないでください。ちゃんと聞かれています。

詩篇56:8で、ダビデ王は言います。

詩篇 56:8 あなたは、私のさすらいをしるしておられます。どうか私の涙を、あなたの皮袋にたくわえてください。それはあなたの書には、ないのでしょか。

全能の主なる神が、神の子どもたちの叫びや苦しみを聞いてくださるとは、なんとという慰めでしょう。

神は、私たちの涙をたくわえるだけでなく、すべての涙を「記憶の書」に記録してくださるのです。

**マラキ 3:16** そのとき、【主】を恐れる者たちが、互いに語り合った。【主】は耳を傾けて、これを聞かれた。【主】を恐れ、主の御名を尊ぶ者たちのために、主の前で、記憶の書がしるされた。

主を恐れる、と聞いて、主を怖がることと混同しないようにしてください。

そういう意味ではないと思います。

たとえば

私はエイミーのことを怖がってはいませんが、エイミーを傷つけたり、失望させたりすることを恐れています。同じように、私たちも主を恐れるのです。

そうする者は、主が覚えていてくださいます。

貧しい人から搾取する金持ちについて、ヤコブが書いているとおりです。

**ヤコブ 5:4** 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。

**ヤコブ 5:5** あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。

**ヤコブ 5:6** あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。

ヤコブは旧約聖書の預言者のように、金持ちや権力者を戒めます。欲しいものを手に入れるために人を傷つけても平気な人たちに対して厳しく語ります。

そういう人たちはあわれな人です。手遅れになる前に悔い改めることを祈ります。

ルカ 16章で、イエスはラザロと金持ちの話をなさいます。ふたりが死ぬと、貧しく苦しい生活を送ったラザロは慰めを受けました。一方、金持ちは火の中で苦しめられました。

**ルカ 16:25** アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。』

従業員が家賃を払えない、家族を養えないという状態のときに、社長が一億円の家を買うのは正しいことでしょうか。

覚えていてください。他人を搾取する人は、主の裁きを受けます。

けれども、裁きは神のすることであって、私たちの務めではありません。そのことも覚えていきましょう。

**ローマ 12:19** 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」

**ヘブル 10:30** 私たちは、「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする」、また、「主がその民をさばかれる」と言われる方を知っています。

お金のあるなしに関わらず、私たちは皆、主の裁きを受けます。ですから、心の動機が神の目に正しいものであるよう気をつけましょう。

たとえば、パウロはこのように言いました。

**1テモテ 6:6** しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。

**1テモテ 6:7** 私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。

**1テモテ 6:8** 衣食があれば、それで満足すべきです。

**1テモテ 6:9** 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。

**1テモテ 6:10** 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

すでに学んだように、お金が問題なのではありません。金銭を愛することが問題なのです。それは、心の動機の問題です。パウロは続けて言います。

1テモテ 6:11 しかし、神の人よ。あなたは、これらのことを避け、正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。

これと同じことをヤコブも言います。

ヤコブ 5:7 こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。

ヤコブ 5:8 あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。

「耐え忍ぶ」の反対は「思い煩う」です。

パウロはこう言います。

ピリピ 4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

ヤコブは、耐え忍びなさいと言っています。どのようにして耐え忍べばよいのでしょうか。

- 1) 何も思い煩わない  
そして
- 2) 感謝をもってすべてのことを祈る

「すべて」でしょうか。そうです。すべてです。

そうです。確かにそう言っています。

ヤコブ 5:8a あなたがたも耐え忍びなさい。

もちろん、言うは易しです。これが簡単なことだとは言っていません。

先週、私たちの霊と肉の間に起こる戦いについてお話しました。

それが簡単かどうかは問題ではありません。問題は、

やる気があるかどうかです。

ヤコブはこう言います。

ヤコブ 5:8 あなたがたも耐え忍びなさい。

忍耐するのが好きな人はいますか。

私自身、正直なところ苦手です。だから日本での暮らしが気に入っています。ロサンゼルス交通渋滞はひどいものです。あれはまったくつかしいと思いません。

つまり、何でもそうですが、待ちたくない、忍耐したくない、と思っていると、なかなかできません。そうしたくないからです。やる気がないのです。

これは、みんなに共通の問題です。やる気があるかないかのどちらかです。

主をもっと知りたいと思っているか、思っていないか。

主に従いたいと思っているか、思っていないか。

人を赦したいと思っているか、思っていないか。

など。

先週読んだように、

エレミヤ 17:9 人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。

だからこそ、私たちクリスチャンは神に助けを求めて賛美するのです。

「神よ、私の心を変えてください。

真実の心にしてください。

神よ、私の心を変えてください。

あなたに似たものとしてください。」

神のみこころにかなう人と言われたダビデも、このように叫びました。

**詩篇 51:10** 神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。

私たちに変わる気がないなら、変わるのとは不可能です。  
しかし、  
私たちにその気があるなら、変わる可能性もあります。

だから、ヤコブはこう続けます。

**ヤコブ 5:8b** 心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。

私たちは「神よ、私の心を変えてください」と叫びます。

けれども先週学んだように、するべきこともしなくてはなりません。  
ヤコブはこう言いました。

**ヤコブ 4:8** 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。

私たちは、自分の分を果たす必要があります。心の中からはじめるのが良いでしょう。  
ヤコブはこう言います。

**ヤコブ 5:8b** 心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。

**Establish. 4741 sterizw sterizo {stay-rid'-zo}**  
強くする

この単語の文字通りの意味

- 1) 安定させる、固定する、定着させる
- 2) 強める、強化する
- 3) 心を定める、確認する

心底、主の前に心を強くしましたか。

主の前に、あなたが一番大切にすべきことは何かわかっていますか。主によって召されたことは何かわかっていますか。また、すべきでないと言われたことは何かわかっていますか。あなたの心を定めましたか。どのようにしてそうしましたか。考えてみてください。いつかは消えるものの上に心を置きたいと思いませんか。もしそうでないなら、この世のものに心を定めるのはやめましょう。すべてのものはいつか燃えてなくなります。いつまでも残るただひとつのものに、あなたの心を定めるのが良いでしょう。

イエスはおっしゃいました。

**マタイ 24:35** この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

神のみことばの上に心を定めましょう。

みことばに語られた経験はありますか。キリストにある新しい人生を築くための土台となるような真理のみことばに出会いましたか。

私が主を受け入れたとき、聖書を手放すことができませんでした。ずっとずっと読み続けていました。

神はいくつかのみことばを用いて、私の心を定めてくださいました。

こういったみことばは、私にとって土台となる真理であり、ずっとそこが私の基です。聖書を読んでいてこれらのみことばに出くわすと、まるで幼馴染に会ったような気持ちになります。主が私に語りかけてくださったことを思い出すからです。神がみことばをとおして私を慰め、励まし、課題を与え、罪を示し、神の愛を再確認させてくださったことを思い出すのです。

心を定めましょう。

神のみことばに照らして、あなたの人生に与えられた範囲や限界を認識しましょう。

神の前に心を定めましょう。そうすれば、神との歩みで自分がどこにいるかがわかるようになります。また、人の前にどのような立場を取るべきかがわかるようになるでしょう。

ヤコブがこう言っているからです。

ヤコブ 5:8 心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。

「そんなこと、2000年前から言われているじゃないか」と思うでしょうか。

そのとおりです。けれども、主が来られるのと、私たちが主のもとに行くのとどちらが先に起こるか私たちにはわかりません。

わかっているのは、いつ何時主のご臨在の前に立たされるかわからないということです。

主が来られるときに備えていますか。自分の死に備えていますか。どちらにしる、備えていなければなりません。主の来られるのが近いからです。私たちにとっても、すべての人にとっても、いつかそうなるのです。

ではどのようにして備えるのでしょうか。

ヤコブは言います。

1) 忍耐する。

2) 心を強くする。

そして

3) 備える。「主の来られるのが近いからです。」

ヤコブ 5:9 兄弟たち。互いにつぶやき合ってはいけません。さばかれなためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。

私たちが人を裁く基準で私たちが裁かれることを覚えておく必要があります。まことの裁き主である主は、互いについて言うことだけでなく、考えていることも見抜かれます。主からは何も隠せません。

主が、戸口のところに立っておられます。

このイメージを頭に描いていれば、つぶやいたり文句を言ったりしない助けになるでしょう。

私たちはすぐに文句を言ってしまいます。けれども、私たちのすべきことはただ愛することです。裁きは神にお任せしましょう。

人の文句を言ったりつぶやいたりするのではなく、その人のために祈りましょう。

イエスは十字架上で、ご自身を虐げる人々のために祈り、模範を示してくださいました。

ルカ 23:34a そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」。。。

この祈りを覚えておきましょう。

もし私が皆さんをがっかりさせるようなことをしてしまったら、どうか私のために祈ってください。

「父よ、ジョセフをお赦してください。彼は何をしているのか自分でわからないのです。」

きっと私も「アーメン」とその祈りに賛同するでしょう。本当にそのとおりであることが多いからです。

ヤコブは、忍耐について語ります。しかし、試練の中で忍耐を持つのは容易なことではありません。ヤコブはこう言います。

ヤコブ 5:10 苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にしなさい。

ヤコブ 5:11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。

耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。

今ここで健康面や財政面、または霊的に精神的に苦しんでいる人に、この言葉が励ましとなりますように。

あきらめないでください。耐え忍んだなら、あなたは祝福されるのです。

聖書を見れば、励ましとなるようなできごとがたくさん記されています。  
ヨブ記を読んでください。ヨブが子供もしもべも財産もすべて失い、痛い腫れ物で体が覆われたとき、神がヨブの世話をしてくださいました。ヨブの3人の友人は、慰めようとやって来ましたが、結果は散々でした。妻からは、神を呪って死になさいと言われました。  
これに比べたら、私たちの悩みはどれほどのものなのでしょう。

こんな状況で、ヨブはどうしましたか。

ヨブ記 **1:21** そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。」  
ヨブ記 **1:22** ヨブはこのようになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。

私たちは神のみことばに向かうべきです。そこには、たくさんの実例が記録されています。私たちと変わらない普通の人々が、悩み苦しみや疑念の中で主にある慰めや希望を見出した記録です。

ヤコブ **5:12a** 私の兄弟たちよ。何よりもまず、誓わないようにしなさい。天をさしても地をさしても、そのほかの何をさしてもです。

今も人々はあらゆる方法で誓います。神に誓う、母の墓に誓う、天に誓う、命を賭ける、などと言います。

誓う目的は何でしょうか。  
本当のことを言っていると相手を信じさせるためではないでしょうか。

では、本当のことを言っていると信じさせなければならないのはなぜでしょう。人は私たちの言うことをどうしてそのまま信じてくれないのでしょうか。私たちがうそをついているとでも思うのでしょうか。どうしてそんな風に思われるのでしょうか。

私たちは言葉に忠実でしょうか。正直で信頼できる人でしょうか。信念を貫く誠実な人間でしょうか。

私たちはクリスチャンでしょう。  
もしそうなら、どうして誓う必要があるのでしょうか。人が私たちの言葉をそのまま受け取ってくれないのは、どうしてでしょう。  
誓うことは、言葉を信じてもらえるだけの信憑性が私たちの人格にないことを示します。

ヤコブは、日常に密着した表現でこのように言います。

ヤコブ **5:12b** ただ、「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。

もちろん、わざと人の気を害したいとは誰も思いません。  
たとえば、誰かがあなたのところに来て、「いつかいつしよに映画に行かない？」と誘ったとします。  
この時点で、私たちには選択があります。  
その人と本当に映画に行きたいかどうかです。  
ここでは、行きたくなかったとしましょう。

どのように返答すればよいでしょう。

- A) 正直に、あなたとは行きたくないと言う。
- B) 映画は好きではないとうそをつく。
- C) 「いつかね。たぶんね」などと返答し、行く気がないことをほのめかす。(ここでは、「たぶん」が重要で、逃げ言葉である。)
- D) 「ちょっと予定を見てから返事する」または「夫(妻)に聞いてみる」などと、はっきり答えるのを避ける。
- E) その人と映画に行く気はまったくないが、「行く」ととりあえず答える。当日になって、すっぽかすか、何らかの理由をつけて直前にキャンセルする。

ヤコブはここではっきり言います。  
「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。

つまり、本当は「いいえ」と思っているのに「はい」と言うことは、何をしているのでしょうか。わかっていながら相手をだましていることになります。

「いや、相手の気を害したくないだけだ」と言うのでしょうか。結局行かなければ相手の気分を害します。自分の言葉の信憑性も落とします。それだけでなく、神の気分を害しているのです。

イエスはおっしゃいました。

**マタイ5:37** 「あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」（口語訳）

悪い者です。これは深刻な問題です。

ヤコブは言いました。

「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。

ここでも、私たちの言葉の及ぼす影響について語られています。私たちは重々気をつけなければなりません。

**マタイ12:37** あなたが正しいとされるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたのことばによるのです。」

ヤコブは続けます。

**ヤコブ5:13** あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいる人がいますか。その人は賛美しなさい。

苦しんでいますか。祈りなさい。喜んでいますか。賛美しなさい。賛美と感謝の歌を歌いなさい。英語の聖書には、詩篇の歌を歌えとありますが、なぜ詩篇なのでしょう。当時は歌のスライドや讚美歌集がなかったからです。

私の好きなクリスチャンバンドに、サンズオブコラ（コラの息子たち）というオーストラリア人グループがいます。彼らが歌うのはすべて詩篇です。このバンドは大きな祝福をもたらしています。

**ヤコブ5:14** あなたがたのうちに病気の人がいますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。

長老とは、テモテ第一3章とテトス1章などに記されているとおり、牧会上の監督や霊的な指導の責任を担う敬虔な男性を指します。

新約聖書のあちこちに、長老、監督、牧師、という単語が使われていますが、どれも互いに置換可能です。これらすべてが同じ職務であることを示唆します。

古代では、油が広く薬として使われていました。しかし、聖書では聖霊の描写でもあります。

病気の人は、長老たちを招いて油を塗って祈ってもらうように指示されました。ここOICで油を塗って祈ってもらうには、ダン牧師か私を呼んでください。私たちは常に油を携帯していますし、主の御名によって皆さんが癒されるために喜んで祈らせていただきます。

**ヤコブ5:15** 信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してくださいます。（新共同訳）

ここは、誤解を招きやすい箇所です。まず、信仰に基づく祈りの部分です。先週、神は高ぶる者を退けられるが、へりくだった者に恵みを与えてくださることを学びました。

祈りが必要だと認めることは、謙虚にさせられる経験です。プライドの高い人が祈りの必要なことを認め、へりくだって主の前に出て、信仰による祈りを求めるなら、

信仰に基づく祈りは何をすると書いてありますか。病人を救います。

これは、病人が病気を癒されるという意味でしょうか。ふたつの解釈があるでしょう。

(みこころであれば) 神は確かにその人を癒してくださるでしょう。けれども、その癒しは一時的なものに過ぎません。

しかし、もし神がその人を天に召されたらどうでしょう。神が祈りに答えてくださらなかったということでしょうか。違います。ちゃんと癒してくださったのです。永遠の癒しを与えて、天に連れ帰ってくださったのです。

どちらにしろ、謙虚さと信仰を示したことで、

「病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してくださいます。」

その人たちは赦されるのです。

私たちはただ祈って、主のみこころのままをしていただきます。

**ヤコブ 5:16a** ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。

罪と訳された単語は、ギリシャ語の原語によると、聖書で通常、罪と訳される単語とは異なります。これは、過ちとか無礼、迷惑という意味です。

これは次の箇所からも明らかにわかります。

**エペソ 2:1** あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、

私たちが誰かに過ちや無礼をしたり、迷惑をかけたしたりしたら、謝るべきです。ごめんなさいと言いましょ

う。誰かが迷惑をかけて悪かったとあなたに言ってきたら、どうすればよいでしょう。二度と話しかけないで！と言えればよいでしょうか。

違います。イエスは、赦しなさいとおっしゃいます。

ヤコブは、互いのために祈りなさいと言います。

**ヤコブ 5:16a** ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。

いやされるためです。これは、悪いことをしたという罪悪感が癒される、また、赦せないという恨みや怒りが癒されることを指します。

ですから、罪を犯したからといって、何でも人に告白する必要はありません。

パウロは言います。

**テモテ第一 2:5** 神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。

もし、祈ってもらうためや、自分の行動に責任を持つために誰かに罪を言い表すことを神が示されるなら、それは良いことです。

ただし、誰に何を言うか十分気をつけなければなりません。

何週間か前に、人は噂話をよくするという話をしました。これはどの教会も共通の問題です。

ですから、誰かに迷惑をかけた、または無礼をしたなら、その相手にそのことを告白しましょう。罪を神以外の誰かに話すなら、十分気をつけてしましょう。

ヤコブは続けます。

**ヤコブ 5:16b** 義人の祈りは働くと、大きな力があります。

**5:17** エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。

**5:18** そして、再び祈ると、天は雨を降らせ、地はその実を实らせました。

エリヤは普通の人間でした。私たちとなんら変わりありません。けれども、エリヤは主とその教えに心を定めた人でした。

義人の祈りは働くと、大きな力があります。自分の祈りに力があってほしいと思いますか。それなら、義人になりましょう。どういう意味でしょう。一言で言うと、神と正しい関係になるということです。間違っただけをやるのをやめる、ということです。先週学んだように、悪事を働くのをやめる。悔い改める。罪を言い表す。そして、赦していただきましょう。

**ヨハネ第一1:9** もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

きよめられたらどうなりますか。義となります。この大切なポイントがおわかりでしょうか。神に何かを祈ってお願いする前に、罪を告白するのは良い習慣です。

**ヤコブ5:19** 私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、

**5:20** 罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということ、あなたがたは知っていない。

日本では、人は自分が失われていることも気づいていません。以前、バーバラさんがエイミーにこう言いました。「ある意味、私たちは救いのお手伝いをする前に、失われるお手伝いをしないとイケないわね。」

ただわかっているのは、どんなことをしても、どれだけの時間がかかっても、どれほどの祈りをささげても、どんなに涙を流したとしても、十分その価値があるということです。罪人が悔い改めるのを手伝えるために、主に用いていただくことの喜びは、言葉では言い表せません。

イエスはおっしゃいました。

**ルカ15:7** あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。

インドの偉大な宣教師ウィリアム・ケアリーはこのように言いました。「神から大いなることを期待せよ。神のために大いなることを企てよ。」

このふたつは対です。  
期待すること（信じること）  
と  
企てること（行うこと）は  
神から大いなることを見るという結果をもたらします。

ここで総括に入りますが、ヤコブが言っていたのはまさにこのことです。

行いのない信仰は死んでいると、ヤコブは言いました。信仰を行動に移しましょう。そして、神が何をなさるか見せていただきましょう。必ず祝福されます。

祈りましょう。